

# ガンバレ!!まなびや

令和6年11月16日(土)

第17号

通信担当:横山 裕太  
岡山自主夜間中学校運営委員会

がっきゅうつうしん  
学級通信

## おかやちゅう ~岡夜中みんなのこえ~

やかんちゅうがく

かいさい

# 夜間中学シンポジウムが開催されました



義務教育を十分に受けられなかった人の学び直しとなる公立の夜間中学が、2025

年4月岡山県で初めて開設されるのを前に、夜間中学の必要性について考えるシンポジウムが、11月4日に岡山市内にあるさんたホールで開催されました。このシンポジウムは、2025年4月、岡山市の岡山後楽館中学校に開設される県内初の夜間中学を広く知ってもらおうと、岡山東ロータリークラブが企画されたものです。

### 【スタッフ・富岡さん感想】

産業界からのパネリストお二人のお話が特に印象に残りました。岡山トヨタ自動車の梶谷社長は夜間中学のことを、ユネスコ憲章を引用して大きな視点で位置づけられ、まさしく今の社会として、世界の在り方として私たち皆が取り組まなければならないことのひとつとして語られました。

同じく引用された学習権宣言には、「学習権とは「問い続け、深く考える権利であり」「自分自身の世界を読みとり、歴史をつづる権利」であり「未来のためにとおかれる文化的ぜいたく品ではない」「生存の欲求が満たされた後に行使されるようなものではない」とあり、今学ぶことを阻害されている世界の多くの状況が思い浮かびました。

また、梶谷社長が言われた、「働き方改革」で会社に縛り付けられていた人を返すのは家庭ではなく地域である、多様性は地域にあるとの言葉には目を開かされる思いでした。普段接点のない分野の方のお話はとても新鮮です。一方で、時間の都合もあったでしょうが、フロアとの質疑がなかったのは残念でした。いろいろな方の意見をお聞きしたかったです。

最後に、不登校の現役中学生も将来的に受け入れるかどうかという議論に関連して司会から、教員の質について質問があった時のことですが、岡山市教委の政久課長の回答は多様な生徒が集まるのだから柔軟性を重視して配置するとのことでした。それに加え、夜間中学で勤務するのが初めての先生ばかりだと思うので、ぜひ運営する中で先生方をサポートする仕組みを作ってほしいと思いました。初年度10人程度という規模から、教科担任は夜間学級で一人きりになるでしょう。それまでに小さな学校で勤務したことがあっても、一人ということにはなかったのではないのでしょうか。夜の勤務も初めてでしょう。最低限・少人数の体制というのも慣れないものかもしれません。生徒さんたちのためにも、意欲をもって赴任される先生を孤立させず、余裕をもって教えられるようにしていただけたらいいなあと改めて思ってきました。



### 【スタッフ・秋山さん感想】

シンポジウムに先立って住職の講演がありました。「衆生無辺誓願度」という意味不明の題名でしたが、噛み砕くと、「ずっと学ぼう、命ある限り手を差しのべよう、人に喜ばれることをしよう、誰一人取りこぼさないように」ということ、自主夜間中の活動に結びつきます。

岡山トヨタ自動車の社長からは、ユネスコ国際成人学習会議の学習権宣言のお話があり、学習とは、読み書きの知識だけでなく、深く考える、創造などを含めて「人々をなりゆきまかせの客体から、自らの歴史をつくる主体にかえていくものである」と定義しているとのこと。やはり自主夜間中の活動に通じるなあと感

じます。フジワラテクノアートの社長は、ご自分の会社になぞらえて「社員ひとりひとりを大切にすること」のお話や、ネットで搜した言葉「この夜間中がホントに良かった」に共感し「この会社があつてホントに良かった」と言われる会社でありたいとの事。こういうことは学校だけでなく普遍的なことだなあ、としみじみ感じます。

公立夜間中については、ロータリークラブの医師の方が仰っていたように「かたいよなあ〜、カッコリし過ぎでは？」との印象でした。一方、自主夜間中については皆さん「有意義だ」と好印象で、シンポジストの方々から今後の援助を期待したくなります。



最後に、住職の講演で紹介された短歌がとても響きました。どの立場にも通じますね・・・

「劫初より つくりいとなむ 殿堂に われも黄金の釘一つ打つ」 与謝野晶子

(ごうしょより つくりいとなむ てんどうに われもこがねの くぎひとつつ)

意味・・・はるか昔の、世の初めから、人類が造り営んで来た美の世界、芸術の立派な建物に、いま自分も、一本ではあるが、輝く黄金の釘を打つのである。(短歌創作の意気込みを詠んでいます。)

### 【スタッフ・岡本さん感想】

私が今回のシンポジウムに参加したのは、行政と自主夜間中学が初めて同じステージに立ってどんな化学反応を起こすか、ということに興味があったからです。

その第2部、大学の講義のような説明から、パンフレットに載っている事の単なる説明に続き、会場の空気を変えたのは、やはり城之内先生の話からでした。そこで語られたのは、これまでの7年間の想い、目の当たりにしてきた様々な現実、つまり単なる説明ではなく実体験に基づいた言葉だからです。

企業の代表の方たちも次第に本音で語り始め、パネルディスカッションはさもすると、それぞれが一方的な主張をするだけで終わることもありますが、今回はきちんとディスカッションになっていたと思います。(ちなみに、藤原社長の話が一番拍手をしたのは私です)皆さんのディスカッションに最後まで仲間入りできていなかったのは、市教委の先生でしたネ。

今回のシンポジウムを通して、夜間中学への社会の理解が広がり、そしていよいよ開校を控えた公立夜間中学に対してより多くの市民の目が注がれ、『これは大変だ、下手な夜間中学にはできないぞ!』という危機意識を市教委がもって本気になることを願うばかりです。



### 今後の行事・予定

- 一斉授業 11/30 (土) 1時間目 イングリッシュサイズ
- その他 12/21 (土) クリスマス会

